

うきは市ルネッサンス戦略

(平成27年9月策定)

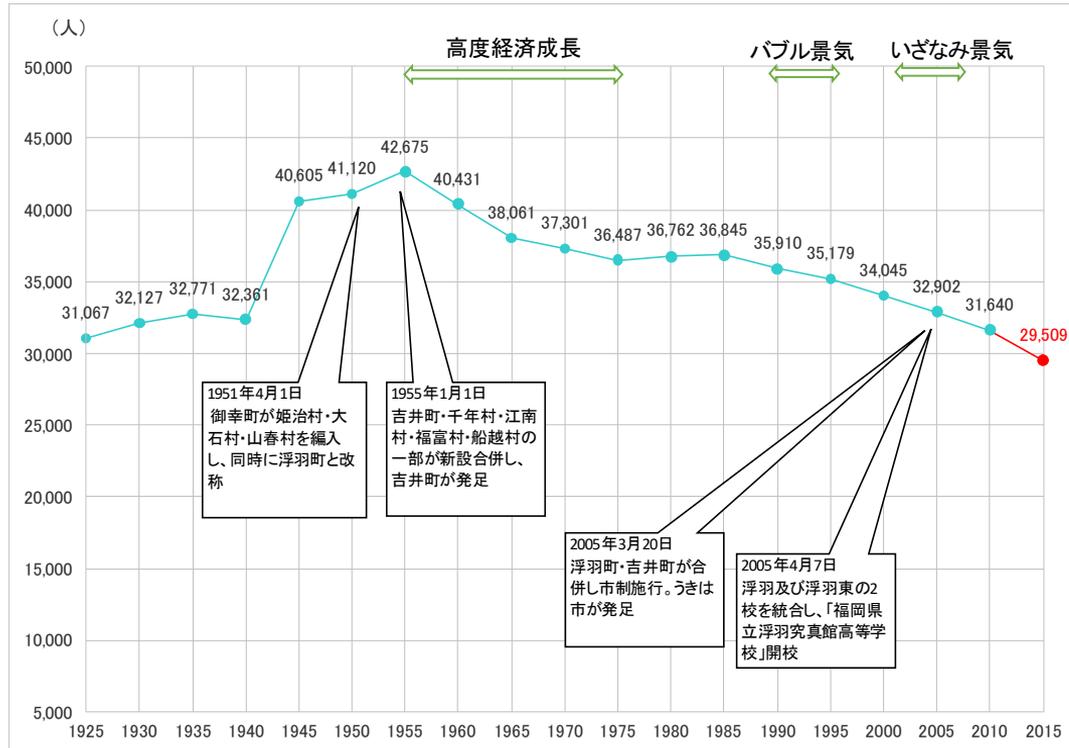
人口ビジョンの検証

2019年6月実施

図表 I - 1 うきは市の人口の推移

検証

・平成27(2015)年の国勢調査結果が公表され、3万人を下回る。

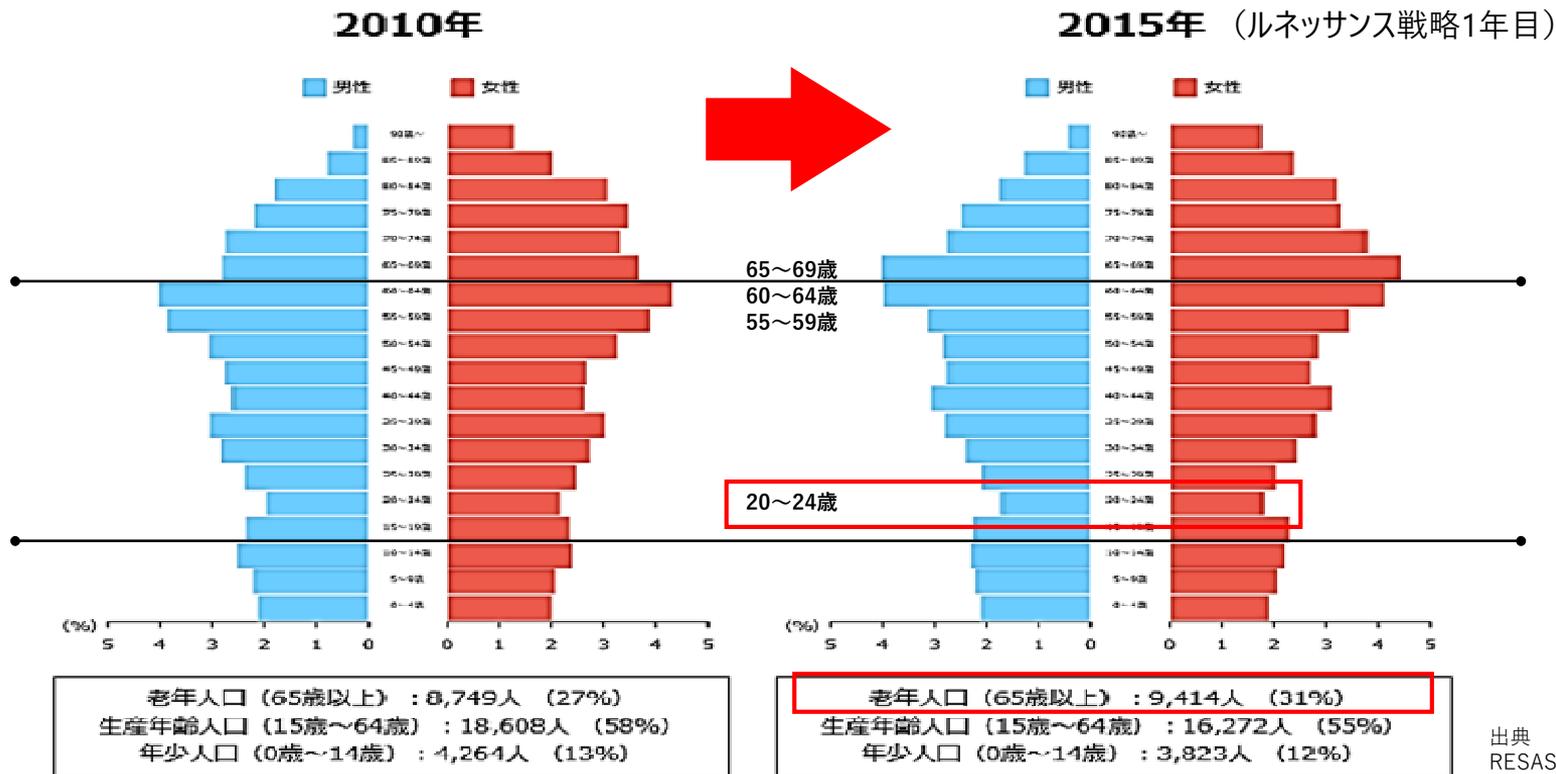


出典:国勢調査

図表 1-2 うきは市の人口ピラミッド

検証

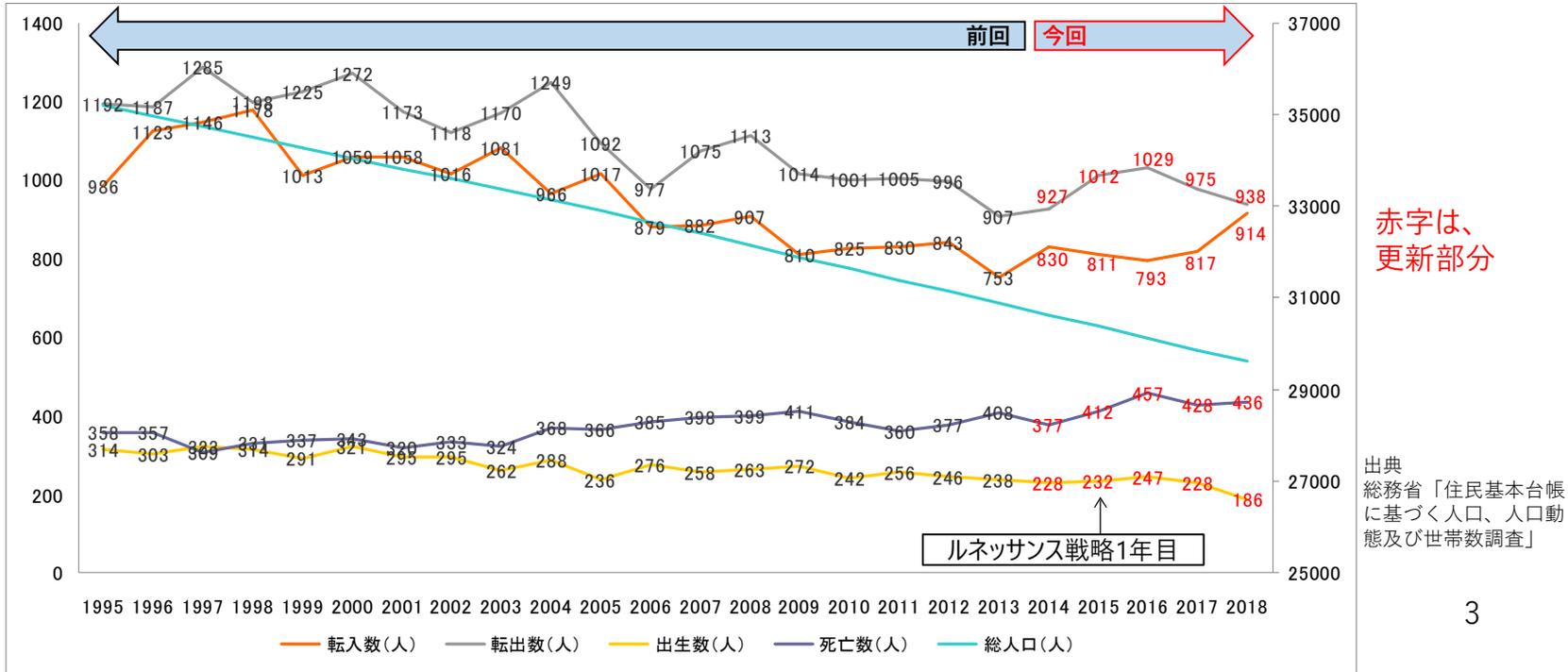
- ・高齢化が進行し、老年人口（65歳以上）の割合が30%を超えた。（団塊の世代が60歳代に至る）
- ・20～24歳の人口が依然として少ない。



図表 I - 3 うきは市の人口動態

検証

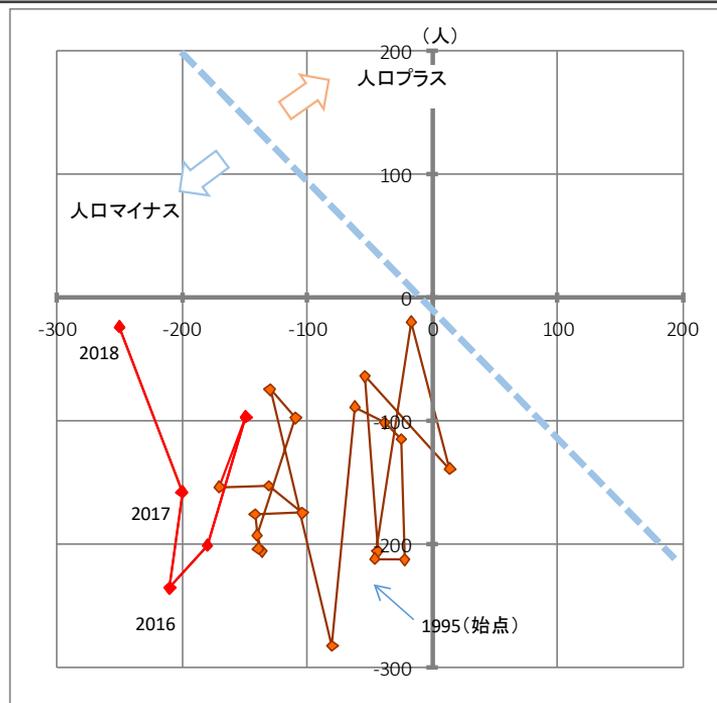
- ここ数年、転入数が増加し、転出数と転入数の差が縮まっている。（社会減が改善）
- 出生数が200人を割り込む一方で、死亡数が400人台となり、差が開いている。（自然減が拡大）
- H27国調人口に2016年以降の自然増減・社会増減（-1078）を反映すると現在約28400人程度



図表 I - 4 うきは市の人口自然・社会増減

検証

- ・ここ数年で転入数が増加し、転出数と転入数の差が縮まってきた。(社会減が改善)
- ・出生数が200人を割り込む一方で、死亡数が400人台となり、差が開いている。(自然減が進む)



増



社会増減数(人)

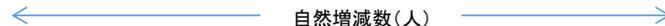


減

赤線は、
更新部分

出典
総務省
「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

減



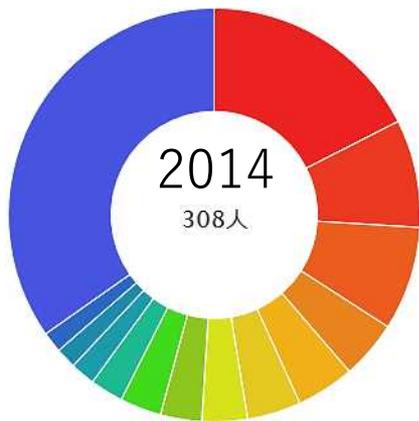
自然増減数(人)

増

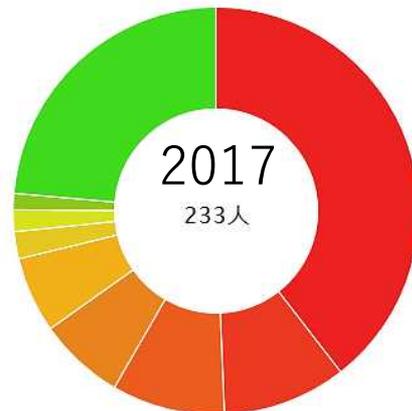
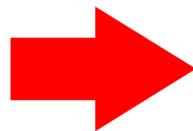
図表 I - 6 うきは市の転出超過先の内訳

検証

- ・転出超過の総数は、308人から233人へと改善。
- ・久留米市への転出超過が増している。（久留米市からの転入より転出が多い）



- 1位 福岡県久留米市 54人 (17.53%)
- 2位 福岡県福岡市早良区 26人 (8.44%)
- 3位 福岡県福岡市博多区 25人 (8.12%)
- 4位 福岡県大刀洗町 14人 (4.55%)
- 4位 福岡県筑後市 14人 (4.55%)
- 6位 佐賀県鳥栖市 13人 (4.22%)
- 7位 福岡県福岡市中央区 11人 (3.57%)
- 8位 福岡県粕屋町 10人 (3.25%)
- 8位 福岡県大牟田市 10人 (3.25%)
- 10位 福岡県福岡市南区 8人 (2.60%)

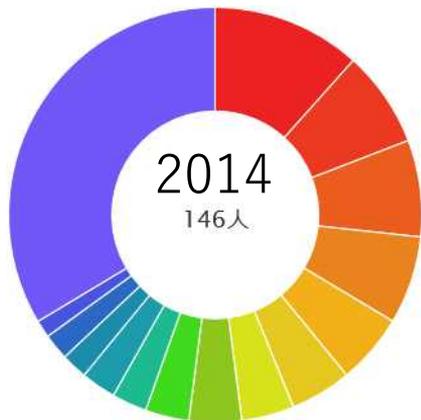


- 1位 福岡県久留米市 92人 (39.48%)
- 2位 福岡県筑紫野市 23人 (9.87%)
- 3位 福岡県福岡市博多区 21人 (9.01%)
- 4位 福岡県北九州市八幡西区 16人 (6.87%)
- 5位 福岡県大刀洗町 14人 (6.01%)
- 6位 佐賀県鳥栖市 5人 (2.15%)
- 7位 福岡県小郡市 4人 (1.72%)
- 8位 福岡県福岡市西区 3人 (1.29%)
- 9位 その他 55人 (23.61%)

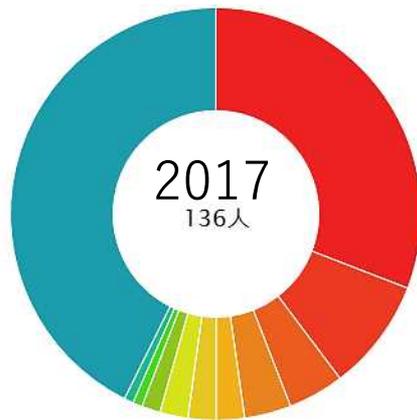
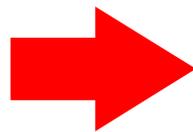
図表 I - 7 うきは市の20歳代の転出超過内訳

検証

- ・20歳代の転出超過が続いている。(146人→136人とほぼ変わらず)
- ・20歳代でも久留米市への転出超過が増している。(久留米市からの転入より転出が多い)



- 1位 福岡県福岡市博多区 17人 (11.64%)
- 2位 福岡県久留米市 11人 (7.53%)
- 2位 福岡県福岡市南区 11人 (7.53%)
- 4位 福岡県筑紫野市 10人 (6.85%)
- 5位 福岡県大刀洗町 8人 (5.48%)
- 6位 福岡県福岡市早良区 7人 (4.79%)
- 7位 福岡県朝倉市 6人 (4.11%)
- 7位 福岡県福岡市中央区 6人 (4.11%)
- 9位 佐賀県鳥栖市 5人 (3.42%)
- 10位 福岡県筑後市 4人 (2.74%)

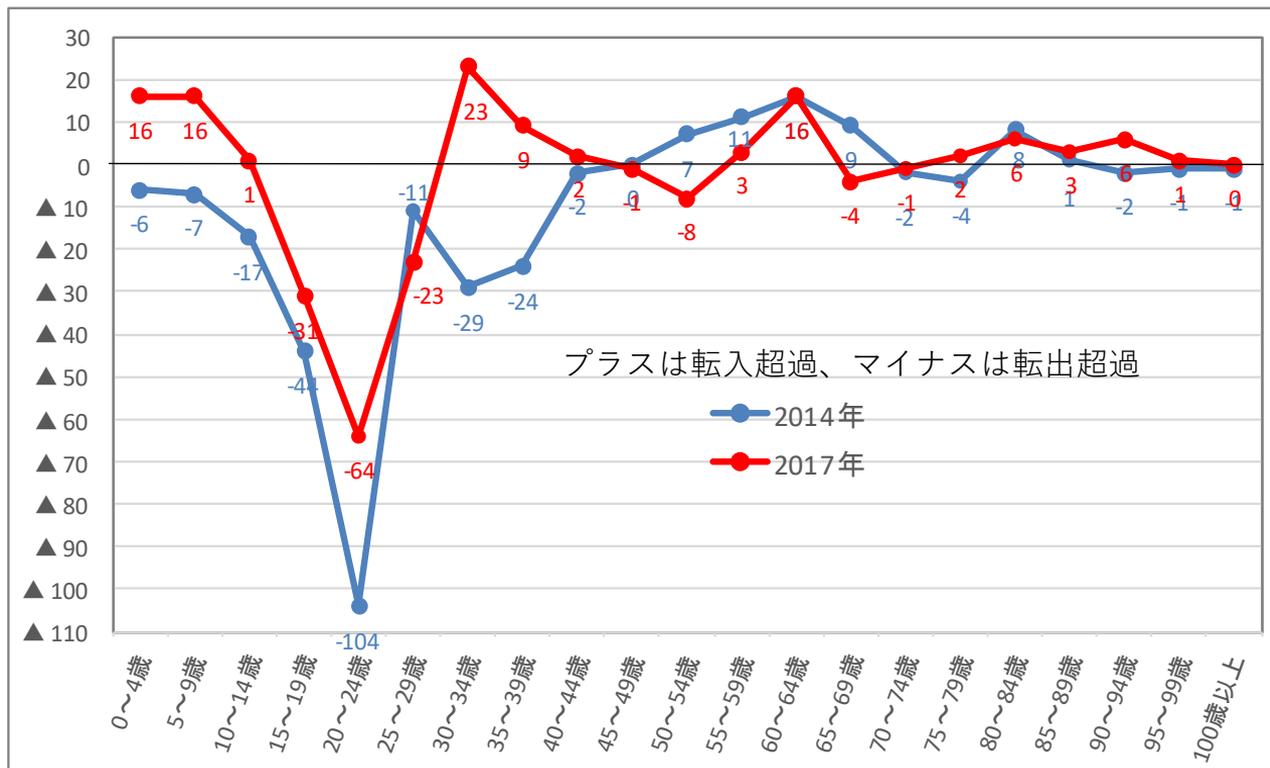


- 1位 福岡県久留米市 42人 (30.88%)
- 2位 福岡県福岡市博多区 12人 (8.82%)
- 3位 福岡県大刀洗町 6人 (4.41%)
- 4位 福岡県福岡市東区 5人 (3.68%)
- 5位 福岡県筑紫野市 3人 (2.21%)
- 5位 福岡県小都市 3人 (2.21%)
- 5位 福岡県福岡市南区 3人 (2.21%)
- 8位 福岡県福岡市中央区 2人 (1.47%)
- 9位 福岡県福岡市西区 1人 (0.74%)
- 9位 福岡県北九州市八幡西区 1人 (0.74%)

図表 I - 10 うきは市の年代別転入・転出状況

検証

- ・若い世代の転出超過が改善している。20～24歳の転出超過が2014年比で6割に抑制された。
- ・子育て世代（30～39歳、0～9歳）の転入超過がおきている。

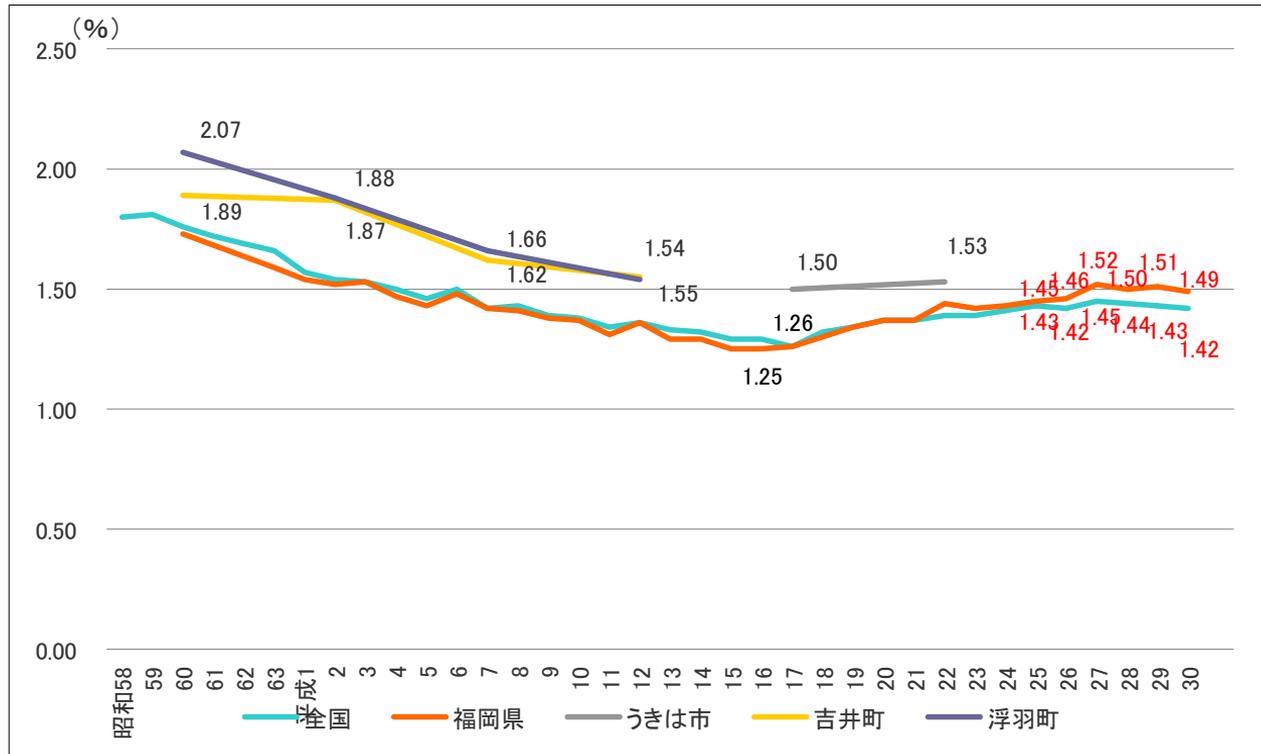


出典
「福岡県の人口と世帯年報」

図表 I - 11 うきは市の出生率の推移

検証

- ・うきは市のH25-H29の合計特殊出生率は、厚生労働省の公表待ち。（前回2014.2.13公表）
- ・全国と福岡県の合計特殊出生率は、H30年で1.42と1.49となっており、前年より低下している。

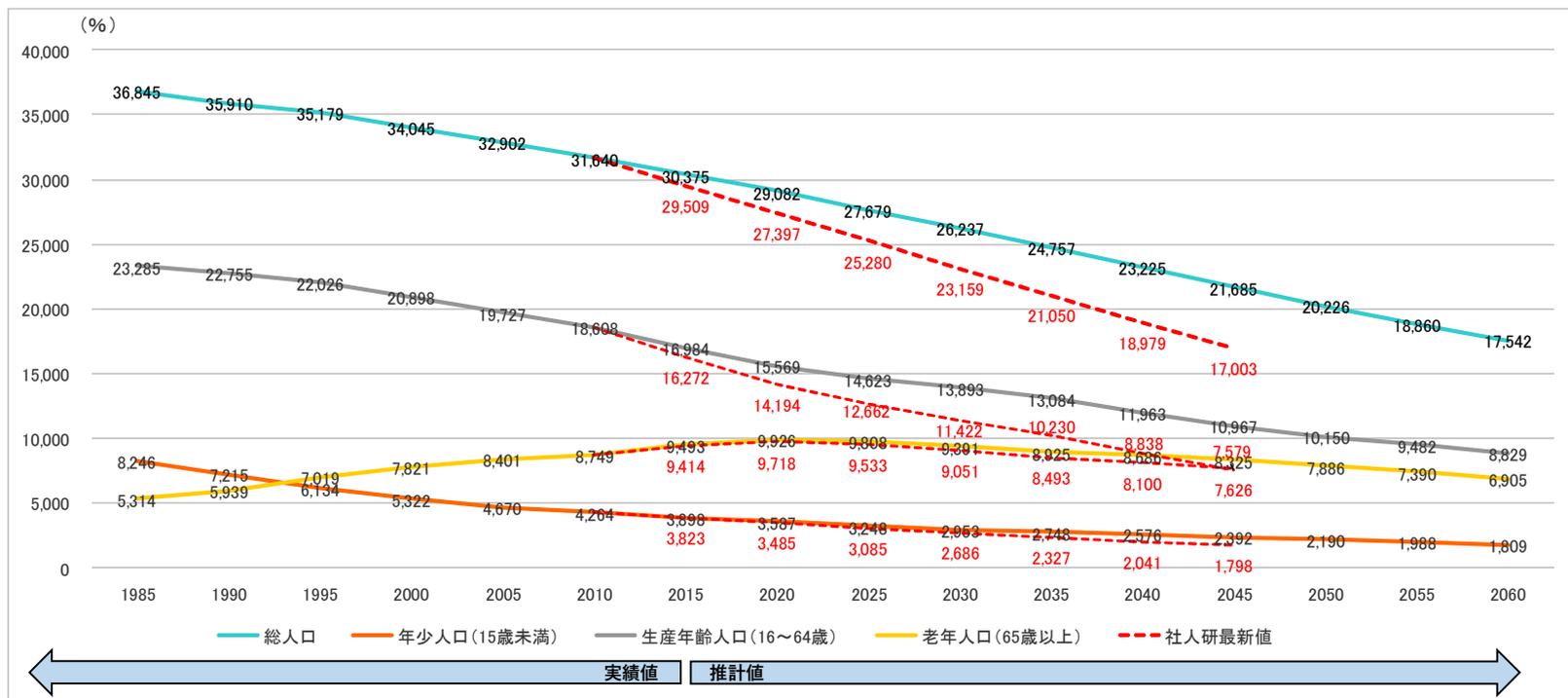


出典
厚生労働省
「人口動態統計特殊報告」
「人口動態統計月報年計(概数)」

図表 I - 13 うきは市の将来推計人口（社人研）

検証

- ・H27年国勢調査を反映させた社人研の推計人口は、2045年に17,003人とさらに減少を予測。
- ・大きな要因は、生産年齢人口（16～64歳）の減少。



まとめ

検証

1. H27年国勢調査の結果、市の人口は3万人を下回り、社人研推計は更なる人口減少を予測。市内では、依然として20～24歳人口の割合が少ない。
2. 地方創生の取り組み後、近年は転入者数の増加と転出者数の抑制が起こっている。とりわけ子育て世代（30～39歳、0～9歳）の転入超過が見られる。
3. 一方で、ゆるやかな出生数の減少と死亡数の増加による、「自然減」が拡大傾向。
4. 出生率は調査中で、引き続き注視していく必要がある。
5. 上記の人口動態を考慮し、目標とする将来推計人口の再設定と次期「ルネッサンス戦略」の策定を行う。
6. 今後も地方創生の取り組みを継続して、持続可能なまちづくりを進める。